

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	菱刈町立田中小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	32	20	32	29	32	29	3	177	

研究の概要

1. 研究主題

確かな基礎学力を育成する学習指導の構想と展開
～評価をふまえた算数科の指導を中心に～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

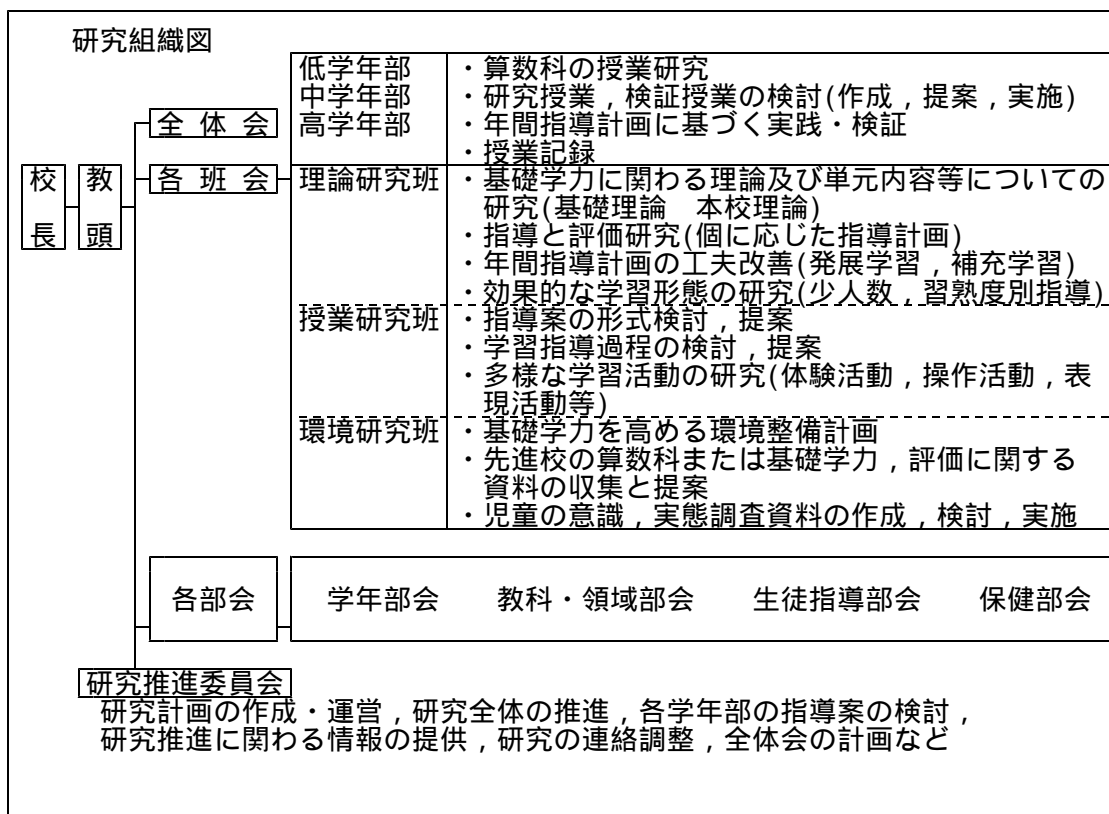
実施学年〔1・2・3・4・5・6年生〕
 実施教科〔算数科〕
 ・これまでの研究成果及び学力検査，実態調査の結果から，学校全体として研究に取り組むため。
 1・2年 - TT
 3年 - 習熟度別指導(2コース)
 4年 - 習熟度別指導(3コース)
 5年 - 習熟度別指導とTTを組み合わせた指導(2コース)
 6年 - 少人数指導(2コース)

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究テーマ</p> <p style="text-align: center;">確かな基礎学力を育成する学習指導の構想と展開 ～評価をふまえた算数科の指導を中心に～</p> <p>研究の仮説</p> <p>子ども一人一人の理解の状況や習熟の程度に応じた学習形態や指導法を工夫すれば，子どもたちは学ぶ楽しさが分かり，学習に主体的に取り組むことができ，基礎学力を身に付けることができるであろう。 基礎的な知識や技能について繰り返し学習を工夫したり，学習環境の在り方を工夫したりすれば，子どもたちは望ましい生活や学習習慣を身に付け，基礎学力の定着が図られるであろう。 子ども一人一人の学習状況の評価を適切に指導に生かしたり，自己評価の生かし方を工夫したりすれば，子ども一人一人のよさを伸ばすことができるであろう。</p> <p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの実態及び変容の把握 ・ 各教科における自己学習力を育成するための学習過程(授業過程)の策定 ・ 習熟度別指導，少人数指導，TT等の多様な学習形態の研究 ・ 指導と評価(目標に準拠した評価) ・ 特色ある教育活動の充実(実りの時間，補充指導，個別指導) ・ 家庭，地域との連携
--------	---

平成 16 年度	研究テーマ	確かな基礎学力を育成する学習指導の構想と展開
	研究の仮説	<p>子ども一人一人の理解の状況や習熟の程度に応じた学習形態や指導法を工夫すれば、子どもたちは学ぶ楽しさが分かり、学習に主体的に取り組むことができ、基礎学力を身に付けることができるであろう。</p> <p>基礎的な知識や技能について繰り返し学習を工夫したり、学習環境の在り方を工夫したりすれば、子どもたちは望ましい生活や学習習慣を身に付け、基礎学力の定着が図られるであろう。</p> <p>子ども一人一人の学習状況の評価を適切に指導に生かしたり、自己評価の生かし方を工夫したりすれば、子ども一人一人のよさを伸ばすことができるであろう。</p>
	研究の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの実態及び変容の把握 ・ 各教科における基礎学力の明確化 ・ 評価規準の自校化 ・ 発展的な学習・補足的な学習の研究 ・ 家庭，地域との連携 ・ 幼・中との連携 ・ 言語能力等の基礎学力に係る資質や能力の定着

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

題材の中で身に付けさせたい基礎・基本を明確にすることで、具体的な学習活動や手立てをもって授業を展開することができるようになってきている。

算数科における学習過程について研究を深めることで、各学習過程におけるねらいと具体的な働きかけが明確になり、共通実践できるようになってきている。

少人数指導を行うことで、子どもができる喜びを感じ、学習意欲が高まるとともに、学習の進め方をが身に付けてきている。

習熟度に応じた指導を行うことにより、評価補助簿等が充実してきており、よりきめ細やかな指導が可能になってきた。その結果、子どもの理解度や習熟度も高まってきている。

一単位時間の終末において、定着状況に応じて難易度の違うプリントを用意し、自分の理解状況を確認しながらドリル学習ができるようにした。課題を速く終えた子どもたちも意欲的に学習に取り組むことができた。

本校における観点別評価規準を策定し、毎時間の達成状況を把握するとともに、観点別の自己評価項目を設定し、子ども自身がどこまで分かり、どこから分からないのかを気付くことができるようにした。

NRTの分析を行った結果等を基に、年間指導計画の見直し及び自校化を図った。今後は、習熟や理解の程度に差が生じやすい題材を洗い出し、補充的な学習、発展的な学習を年間指導計画の中に位置付け、さらに見直しを図っていきたい。

個々の定着状況を計画的に調査し、その結果を基に放課後の補充指導を行った。TT、専科、必要に応じて養護教諭、管理職にも加わってもらい、個に応じた（特に習熟の程度に応じた）補充指導を行うことができた。

基礎学力の充実には、学校における授業の充実は基より、家庭での学習の習慣化が不可欠であることを家庭教育学級の場合や学校だより、学級通信等で知らせている。具体的には「家庭学習の手引き」を作成し、その基本的な考え方や方法について学級PTA等で説明したことで、保護者の子どもの学習への関心が高まった。

すべての保護者を対象とした教育相談の中で、子どもの学習状況を標準学力検査結果や個人カルテを基に、数値的に示し、現段階における各教科の理解状況や学び方（学習態度や学習用具の準備）等についても知らせ、子どもの実態を理解していただくことができた。

実りの時間を週4日実施したことで、「読み・書き・計算」などの力を伸ばすことができた。子どもたちは自分の目標をもって意欲的に取り組んでおり、各教科においてもそれらの効果が上がってきている。

実りの時間に視写を取り入れたり、各教科の時間のめあてを聴写で書くようにしたりしたことで、ノートへの記入が以前よりも速くできるようになってきている。

各教科において、授業中に自分の言葉で発表しようとする子どもが増えてきている。

2. 今後の課題

少人数指導では、教師が教え込んでしまったり、子どもたちから多様な考え方が引き出せなかったりという面が見られた。指導法、指導形態を工夫していく必要がある。

自力解決した結果を基に、比較検討したり、相互解決したりして子どもの理解を深めるための手立てを明確にする必要がある。

教師から与えられた課題には積極的に取り組むが、自分なりの課題を設定して挑戦しようとする子どもが少ない。自己学習力を身に付けさせるための研究をさらに深めたい。

基礎学力の研究を進める中で、本校の子どもたちにもっと身に付けさせたい基礎学力が明確になってきた。（図や絵に表す力、自分の考えを表現する力など）今後は、身に付けさせたい基礎学力を日々の授業の中でいかに高めていくかという研究を深める必要がある。

習熟度別指導、少人数指導の指導方法については、それぞれに創意工夫がみられるが、まだ十分とは言えない。さらに効果的な指導法、指導形態について研究を深めていきたい。

習熟度別指導や少人数指導を行う際は、教師間の連携をもっと緊密に取っていく必要がある。効率的な教材研究、連携の在り方を研究していきたい。

習熟度別の少人数学習では、適切なコースを選択できない子どもが見受けられる

教師の指導・支援の研究がさらに必要である。

評価においては、身に付けた結果の知識の量だけを評価するのではなく、学ぶ過程で発揮された子どものよいところや可能性、進歩の状況等も参考にしながら学ぼうとする意欲、思考力や判断力などを積極的に評価しなければならない。適切な評価を与える見方を教師自身が身に付ける必要がある。

子どもの学習状況をより客観的に評価するために、さらに評価規準の研究、教師自身、子ども自身による自己点検、自己評価を継続して行っていく必要がある。

どの学年も子どもたちの発表する時の声が小さく、聞き取りにくい。実りの時間だけでなく、朝の会等でもボイストレーニングを取り入れていく必要がある。

学校から出された宿題や音読には取り組んでいるが、自宅学習を進んで行う子どもの育成が不十分である。さらに家庭との連携を図っていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

N R T検査

4月実施 2・3年—国語・算数 4・5・6年—国語・社会・算数・理科
知能検査

4月実施 2・4・6年

C R T検査

2月実施 1～5年—国語・算数 6年—国語・社会・算数・理科

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年10月24日(金) 研究公開開催

13:00 13:30 14:00 14:10 14:55 15:05 15:55 16:10 16:55

受	研究	移	研究	移	分	移動	全
付	発表	動	授業	動	科	・休憩	体
					会		会

対象：小・中・高教員，幼・保職員，保護者ならびに地区PTA会員
目的：これまでに実践研究してきたことを公開することにより，たくさんの方々のご意見・指導をいただき，本校の研究をさらに深化・発展させるため。

平成16年10月26日(火) 研究公開開催予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無